

新製品紹介

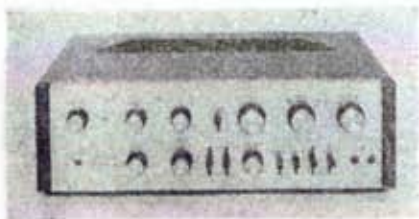
1. オーダー・メイド感覚ブリ・メイン・アンプ《東芝 SB-700》



東芝から、光電子カートリッジ、エレクトレット・コンデンサー・カートリッジなど、一連の高性能カートリッジに組みあわせて、最高の性能を発揮する「コンポーネント700シリーズ」が発売される。このSB-700は写真からわかるように、システム・ユニット交換方式といって、トーン・コントロール、VUメーター、フラット・アンプなどの好みの回路を組み入れることができる。「これからのコンポーネントはオーダーメイド思想をとり入れねばならぬ」というポリシーの実践というわけだ。

[おもな規格] 使用半導体=59Si・Tr, 22D, 使用IC=3コ, 出力=ミュージック・パワー(2チャンネル); 160W(8Ω), 200W(4Ω), 定格出力; 50W(1チャンネル), 周波数帯域特性=8Hz~50kHz H. D 0.1%以下。

2. ステレオ・ブリ・メイン・アンプ《パイオニア SA-100》



メイン・アンプ部は、シリコン・トランジスターによる全段直結型、電源は正負対称(スプリット・サブライ)方式で、広い周波数範囲にわ

たって歪のない、余裕をもった大出力を得る。ヘッド・アンプ部は低雑音シリコン・トランジスター3石によるE-E帰還回路採用により、安定度はすぐれ、ダイナミック・レンジが広がっている。またPHONO入力には2組あり、一方はカートリッジの負荷インピーダンス50kΩの一定、他は20kΩ, 50kΩ, 100kΩの3段切換つきで、さらに別売のMC用インプット・トランスを使用すればMCカートリッジも使える入力ノケットがついている。そのほか、テープ・デッキが2台使える入力端子、ミュート・スイッチ、Low-Highカット・フィルターなど、まず最高級機といて間違いないだろう。

3. ブリ・メイン・アンプ《シャープ SM-503J》



ST-503Jとのマッチングを考慮した新製品、10月末に発売された。ブリ、メイン全回路に良質のシリコン・トランジスターを使用したSEPP OTL-ITL方式になっている。トーン・キャンセラー回路により、位相ズレのない、完全にフラットな音が再生できる。PHONO AUXの入力端子を2系統備えたデュアル・インプット・システムなので、2つの信号源を切り換えて比較試聴できるのも大きな魅力になっている。

[おもな規格] 使用石類=18石6ダイオード, ミュージック・パワー=21W+21W以上(歪率1%時), 全

高調波歪率=0.08%(5W出力時), パワー・バンド幅=20Hz~30kHz, 再生周波数帯域=20Hz~100kHz, 4チャンネル・セパレーション=50dB. ¥34,800

4. 4チャンネル・メイン・アンプ《東芝 SC-700》



「システム設計」と「オーダー・メイド的思想」に主眼をおいた、「コンポーネント700シリーズ」中のひとつ。4チャンネルと2チャンネルはスイッチ切換になっている。BTL方式の大出力、完全コンプリメンタリー回路で、2電源・OTL, OCL, 各チャンネル出力50W, BTL方式に切換えると100W×2という大出力が得られる。保護回路は電子回路による瞬時入力制限型と熱感応型併用の2重保護方式をとっている。

[おもな規格] 使用半導体=52Si・Tr, 2FET, 32D, 出力帯域特性=8Hz~50kHz, 高調波歪=0.009%(1kHz 定格出力時), 0.012%(1kHz, 1W時), 混変調歪=0.04%(定格出力時), 0.08%(1W出力時), SN比=110dB以上。

5. イコライザー・ブリ・アンプ《サンヨー電子 SPD-40型》

これは2SC458, 2SK24をそれぞれ2コ使用した、ステレオのイコライザー・アンプを金属ケースに組み込んだもの。110(L)×50(H)×72(W)mm, 310gというコンパクトな形態なので、レコード・プレーヤー内部にとりつけることもできるし、総台

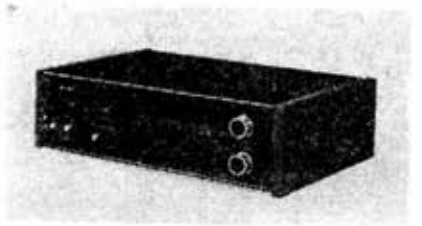
新製品紹介



アンプ製作のときには、イコライザー・ヘッド・アンプとしてケース内に組み込むこともできる。テープ、マイクのヘッド・アンプとして使用するときは裏ふたをはずして RIAA の NFB を切断し、それぞれテープ端子、マイク端子に接続すればよい。

[おもな規格] 出力=2.2V 最大(歪率 1%以下, 入力 60mV にて) 歪率 0.05% 以下(入力基準レベルにて), 周波数特性 PHONO (RIAA イコライザー特性)=30Hz~15kHz (± 1 dB 以内)。
¥3,900

6. AM/FM ステレオ・チューナー 「シャープ ST-503J」



本格的 FM 時代をむかえて、感度および混信除去能力に焦点を合わせて開発された新製品。フロント・エンドに 4 連バリコンと低雑音 $FE_{\mu}3$ 石を使用して、IHF 感度は 1.6M V, IF 段は IC とセラミック・フィルターを採用して、2 信号選択度 65 dB, キャプチャー・レシオ 2 dB, SN 比 75dB となっている。この SN 比の値は従来の EI コアからカットコア・トランスへの変換で漏洩磁束が大幅に低下したことが要因である。付属回路にはミューティング回路をはじめ、FM モノ/ステレオ自

動切換回路、ステレオ信号表示ランプ、SCA フィルター回路などが逃げられる。発売日は10月末。

¥29,800

7. FM/AM ステレオ・チューナー 「東芝 ST-700」

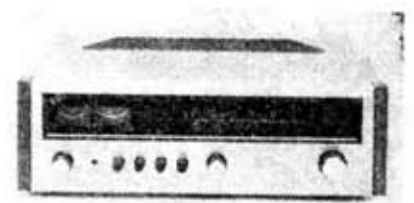


これは 700 シリーズの中のチューナー、MOS FET を使用して、RF 2 段と MOS MIX によるフロント・エンドで、変調妨害排除特性は抜群の水準にある。オーディオ機器の IC 化に力を入れて実績をあげている東芝らしく、7 段の差動リミッター・アンプは IC 化され、高増幅率、安定リミッターで雑音をシャット・アウトしている。

[おもな規格] 使用半導体=5FET (内デュアルゲート MOS 3 石), 37 Si・Tr, 33D, 実用感度=1.5 μ F (IHF), キャプチャー・レシオ=1.5dB (IHF), 実効選択度=90dB, AM 抑圧度=65dB, 高調波歪=MONO 0.2%, STEREO 0.5%, 周波数特性=20~14,000Hz ± 0.5 dB, ステレオ・セパレーション=40dB (400Hz), 30 dB (10kHz), SN 比=70dB, スプリアス・リゼクション=100dB。

8. AM/FM ステレオ・チューナー 「パイオニア TX-100」

EM フロント・エンド初段に MOS FET, 4 連バリコンを使用し、さらに高周波増幅 2 段つきで、イメージ妨害、混変調歪などに対する排除能力はすぐれている。IF 段にはクリスタル・フィルターを 2 コ、IC を 4 コ使用して、キャプチャー・レシオ 1.5dB という数値を示している。マルチ回路は IC 化され、温度や湿



度変化の影響を受けず、特に高い周波数でのセパレーションは抜群、ミューティング・レベルは前面の VR ツマミで調整できる。

[おもな規格] 使用半導体=2FET, 5IC, 33Tr, 22D, 感度=1.7 μ F (IHF), キャプチャー・レシオ=1.5dB (IHF), 実効選択度=65dB, SN 比=70dB 以上, 歪率=0.5%以下(100% 変調), IF 妨害比=100dB 以上 (IHF), 出力電圧=最大 2.4V, 最小 26mV 可変。
¥60,000

9. ステレオ・カセット・デッキ組み込みの AM/FM ステレオ・レシーバー 「ROTEL RX-240」



ステレオ・レシーバーとステレオ・カセット・デッキの本格派コンビネーション・セット。FM チューナー部は、3 連バリコンと低雑音 $FE_{\mu}3$ によるフロント・エンド構成で IHF 感度 2.5 μ V, IHF 選択度 45dB, キャプチャー・レシオ 3 dB, SN 比 65dB 以上というデータになっている。パワー・アンプ部はシリコン・トランジスター使用の ITL・OTL 方式でミュージック・パワー 60W, 広帯域にわたって、きわめて歪の少ない、ダンピング特性に優れた原音を再生する。カセット・デッキ部は 4 極コンデンサー、モーター、ベル

新製品紹介

ト・ドライブ方式で、周波数特性30 Hz~10kHz, SN比45dB, ワウ・フラッター0.2%以下, 歪3%以下という性能である。 ¥68,000

10. オープン・リール・ステレオ・デッキ《ビクター TD-664型》



1モーター3ヘッドで、オートストップ、オートスタート機構を採用している。手持ちのタイマーと連動させて、希望の時間にラジオ放送を録音し、録音が終わると、自動的に操作つまみがストップ状態に戻り、機構部の電源も切れる。電源オフの状態では操作つまみがブレイの位置でも、内部のアイドラ、ピンチローラーは圧着していないので、ゴムの変形の心配がない。またMICとAUX-INのレベル・ボリュームがそれぞれ独立しているので、本格的なミキシングができることと、エコー録音でユニークなオリジナル・プログラムを創作できることが大きな特長である。

[おもな規格] 消費電力=55W, 使用石数=4IC, 14Tr, 6D, 1ZD, テープ速度=19cm/sec, 9.5cm/sec, 4.8cm/sec. ワウ・フラッター=0.09% WRMS, 0.12% WRMS, 0.16% WRMS (テープ速度と同順).

¥69,800

11. ダイレクト・ドライブ式カセット・デッキ

《テクニクス RS-275U》



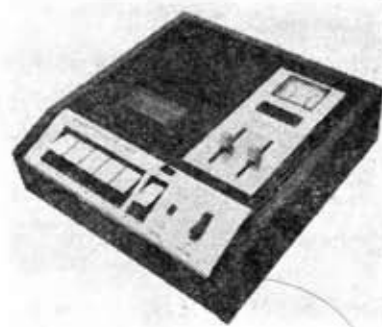
12月21日に、ナショナルから最初のテクニクス・カセット・デッキが発売される。すでにターン・テーブル SP-10, プレイヤー SL-1000 で優れた性能が実証されたダイレクト・ドライブ・モーターをキャプスタンに使用している。このため、ワウフラッターが著しく改善されると同時に、回転部分やベルトの摩耗がなくなっている。

また、早送り、巻戻し専用のモーターを設けて2モーター方式になっていること、HPF (ホット・プレス・フェライト) ヘッドを採用したことによって、きわめて安定した高域特性を得ていることも大きな特徴である。

[おもな規格] 使用半導体=24Tr, 15D, 録音トラック方式=4トラック2チャンネル, 操作方式=マイクロ・スイッチ押鉛, テープ速度=4.8cm/sec, SN比=50dB以上, 周波数特性=20~15,000Hz, ワウ・フラッター=0.10%, 重量=8.5kg.

12. ステレオ・カセット・テープ・デッキ《シャープ RD-423J》

安定回転で定評のある高性能サーボ・モーターを採用したカセット・デッキが、10月末にシャープから発売された。シリコン・トランジスターを全回路にとりいれて安定した特性を得ている。エンド・アーム装置メカニカル・ポーズ, 2連ユニッ



ト型大型VUメーター, スロット・ローディング式カセット・ホルダー, ワンタッチ・リセット3桁テープ・カウンターなど, 付属機構も充実したものになっている。キャビネットは高級感あふれるウォルナット製。[おもな規格] トラック型式=4トラック2チャンネル, テープ速度=4.8cm/sec, ワウ・フラッター=0.18% WRMS, 出力=0.775V, 周波数特性=40~13,000Hz, SN比=45dB, 使用トランジスター=18石, 使用ダイオード=8コ。 ¥29,800

13. P&D カセット・コーダー《ソニー TC-2100型》

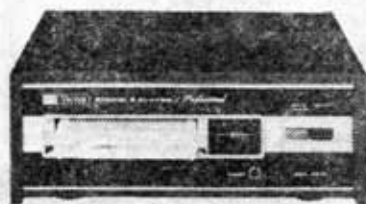


P&D というのは Portable and Deck ということ、手軽に持ち歩いてどこでもステレオ録音ができ、また、手持ちのステレオ装置と組み合わせて、ステレオ・デッキとして録音・再生が楽しめる。エレクトレット・コンデンサー・マイクを内蔵し、スピーカーは10cm, 出力1.5Wであるので、ブームを呼んでいる蒸気機関車やの音、野鳥の声の録音にはもってこいの新製品といえる。

新製品紹介

音質の点は、ロー・ノイズ・シリコントランジスターを採用して、特にHi-Fi設計に留意されている。外形寸法は384(W)×66(H)×217(D)mm、重量=2.8kg。10月21日に発売された。

14. ステレオ8プレーヤー 《ビクター CHR-201型》



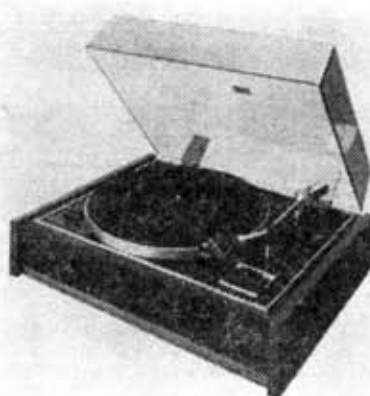
ステレオ8カートリッジ専用のプレーヤーであるが、モーターおよびキャプスタンに特殊ボール・ベアリングを採用しているので耐久力が飛躍的に向上し、1万時間無給油連続使用が可能になった。使用時間は裏面にある使用時間計にでる。ヘッドホン端子つき。発売は11月21日。

〔おもな規格〕消費電力=25W、テープ速度=9.5cm/sec. トランジスター=2SC458×8、ダイオード=FR-2×3。ワウ・フラッター=0.25% RMS以下。周波数特性=30~15,000Hz、クロストーク=50dB以上、SN=50dB以上、全高調波歪=3%以下、寸法=106(H)×259(W)×248(D)mm、重量=3.5kg。 ¥25,900

15. ベルト・ドライブ・ステレオ・プレーヤー 《シャープ RP-201J》

レザー張り大型ウォルナット・キャビネットの漸新なデザインが目をひくプレーヤーである。発売意図は「コスト・パフォーマンスに優れたプレーヤー」となっている。

〔規格〕カートリッジ=ムービング・マグネット型、針=ダイヤモンド針、モーター=4磁シンクロナス・モータ

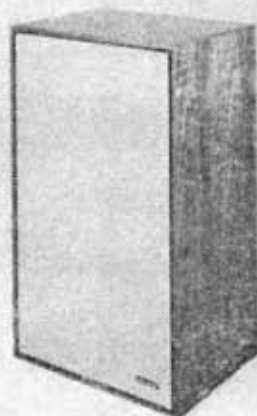


一、ターン・テーブル=30cmアルミ・ダイキャスト・ターン・テーブル、自動機構=オート・リターン、オート・カット、駆動機構=ベルト・ドライブ方式、トーン・アーム=S字型10φパイプ・アーム、スタティック・バランス型、ヘッド・シェル交換式、SN比=43dB、ワウ・フラッター=0.1%(NOM)、チャンネル・セパレーション=25dB(NOM)。 ¥29,800

16. ブックシェルフ型3ウェイ・スピーカー・システム

《パイオニア CS-E900, 900》

ブックシェルフ型特有の縦位置、横位置にも使える形態をさらに音質面から追及し、ステレオ再生に重要な横方向の音の広がりを重視し、縦方向にも十分な処置がほどこされている。そこで画期的なのは、キャビネットを縦、横いずれに置いた場合も理想的な広角度指向特性が得られるように、マルチ・セルラー・ホーン・トゥイーターが90°回転式になっていることである。



〔おもな規格〕構成=30cm, 12cm, マルチ・セルラー・ホーン キャビネット形式=完全密閉型、インピーダンス=8Ω、再生周波数帯域=30~28,000Hz、出力音圧レベル=92dB/W(新JIS表示)、最大入力=75W、クロスオーバー周波数=400Hz, 4,000Hz、外形寸法・重量=(CS-E900)405(W)×705(H)×300(D)mm・25kg。(CS-900)405(W)×705(H)×320mm・25kg。

¥55,000(いずれも)

17. バスレフ式3ウェイ・スピーカー・システム

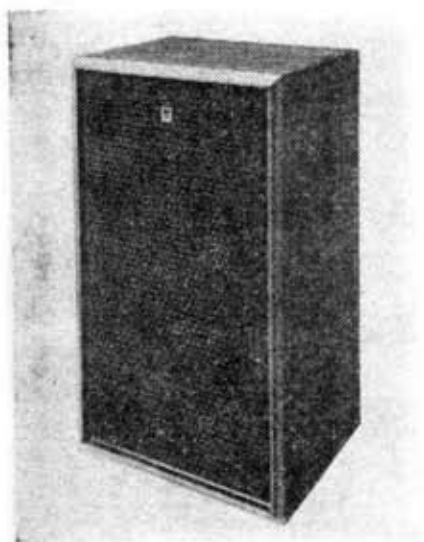
《シャープ CP-501》

マルチ・アンプ時代に対応したマルチ入力端子、中音・高音それぞれのレベル・コントロールを備えたスピーカー・システムがシャープから10月末に発売された。レベル・コントローラーは前面操作になっており

パイオニアの4チャンネル機器は176ページに

パイオニア(株)では4チャンネル・ステレオのプリ・アンプ(QC-80)、パワー・アンプ(QM-80)、プリ・メイン・アンプ(QA-80)、テープ・デッキ(QT-6600, 6100)、カートリッジ・テープ・デッキ(QT-2100)を発表しました。これらの新製品は176ページに詳しい解説を掲載しましたのでごらん下さい。

新製品紹介



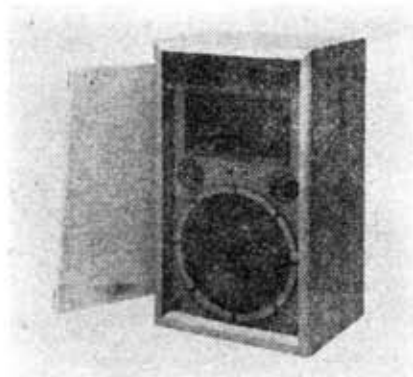
マルチ入力端子は4～6チャンネル可能である。前面ネットが取りはずしできるということも、マニアのためにひとことつけ加えておこう。

[規格] 使用スピーカー=ウーハー 30cm コーン型, スコーカー 13cm コーン型, ツィーター 6.5cm ホーン型, エンクロージャー型式=位相反転型, 最大入力=60W, インピーダンス=8Ω, 音圧レベル=100dB, 再生周波数特性=50～18,000Hz, クロスオーバー周波数=低中音 600Hz, 中高音 5,000Hz, 寸法=660(H)×380(W)×305(D)mm, 重量=15kg. ¥33,000

18. マルチ・セルラホーン・スピーカー・システム

〈テクニクス SB-600〉

SB-400に次ぐマルチ・セルラホーン・シリーズの第2弾。ツィーターには6セルのものを2コ、スコーカーには8セルのものを使用して、すぐれた指向特性をそなえた、張りのある伸びやかな音色を発揮する。いわゆる「ホーン臭さ」を取り除くために、ドライバー・ユニットにシリコン特殊制動方式を採用し、スコーカー振動板にはアルミ合金ダイヤモンドを採用して、解像力・透明度を高めている。



ウーハーは、エッジに軟質発泡ウレタンを使用した30cmハイコンプライアンス型。コーン紙は音の放射面と裏面を硬く、内部を柔くした特殊三層構造で内部損失が理想的状態になっている。マルチ・チャンネル用入力端子つき外形寸法 380(W)×660(H)×300(D)mm, 重量 19kg. 発売予定12月。

19. Lo-Dスピーカー・システム

〈日立 HS-201C, 250C〉



HS-201C

日立のスピーカー・システムの機種は多くないが、Lo-Dスピーカー・システムとして、低歪を追及していることはよく知られている。HS-500, HS-1400Wに上記2機種が加わって4機種になった。低音から高音まで歪のないバランスのとれた音を再生するとともに、指向特性につ

いても優れている。写真のHS-201Cは2ウェイ2スピーカーであるが、HS-250Cの方は3ウェイ3スピーカーである。

[規格] (HS-201C) エンクロージャー形式=ダンプト・パスレフ, ユニット=ウーハー; 20cmハイコンプライアンス, ツィーター=ホーン(H-54H)ディフューザーつき, 再生周波数帯域=4,000Hz, クロスオーバー周波数=40～20,000Hz, ネットワーク=12dB/oct LC型, 入力インピーダンス=8Ω, 瞬間最大入力=20W. ¥19,800(HS-201C)

¥29,800(HS-250C)

20. FM/AMラジオつきカセット・テレコ

〈ビクター CCR-710R〉



AC/DCカー・バッテリーの3電源方式, エンド・アラームとオート・シャットオフの併用により, 録音ミスを防ぐとともに, テープを保護している。ビート・カット・スイッチは, AM放送録音中に放送局からくるビート妨害をカットするのに有効である。ワイヤレス・マイクによる遠隔録音も可能。

[おもな規格] 消費電力=9W, テープ速度=4.8cm/sec, 周波数特性=80～12,000Hz, トランジスター=18

新製品紹介

石、ダイオード=8コ、出力=1.5W、スピーカー=10cm(円形)、寸法=280(H)×210(W)×750(D)、重量=3kg。 ¥27,800

21. ポータブル・カセット・テープレコーダー

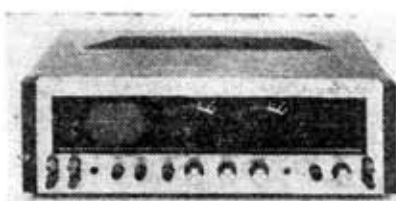
〈ビクター CCR-605型〉



ブラックとシルバーを基調とした格調高いデザインと、機能表示に日本字が用いられているのが新鮮な感じを与える。録音レベルはすべて自動調整になっているので適性録音にむずかしい技術を必要としない。バッテリー・チェッカーで乾電池の消耗度を知ることができるというのも細かいことだが、ゆきとどいた配慮といえる。

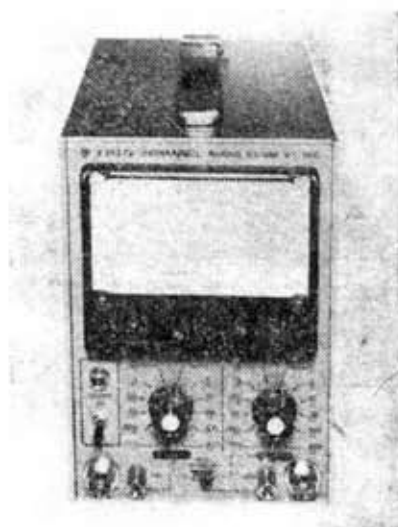
13,800円という値段は、リモート・コントロール付きダイナミック・マイク、試聴用カセット・乾電池、専用キセリング・バッグがついた値段だから、文句なしに安い。発売日11月21日。

22. ステレオ・ディスプレイ 〈パイオニア SD-100〉



オシロスコープをはじめ、オート・スイープができる低周波発振器、レベル・メーターおよび広帯域マイクアンプを一体化した新感覚の装置で、オーディオ機器の入口から出口までの各種波形の観測、諸特性のチェック、4チャンネルや2チャンネルのステレオ信号の波形観測、解析、レベルチェックなど、きわめて広範囲な用途をもっている。使用半導体は9FET、38Tr、30D、ブラウン管は75mm高輝度ブラウン管で、位相角測定、FMアンテナ調整、ステレオ信号のバランス調整が容易である。10dBステップ(0, -10, -20dB)切換えの大型レベル・メーターはVUメーターとしても、出力メーター、電圧メーターにもなる。さらに入力端子は2チャンネル用の他に4チャンネル用もあり、マニアの間から「マッテマシタ!」と声がかかるような万能機である。

23. 高感度2チャンネル電子電圧計 〈トリオ VT-150型〉



研究、開発、生産工程などの測定や観測項目の多現象化に対処するために、省力化を目的とした2指針メーターの電圧計が、来年1月にトリオから発売される。2つの現象を同時に測定できるだけでなく、2つの現象の比較に都合がよい。オール・ソリッド・ステートである上に、各チャンネルとも独立した回路構成になっているので、チャンネル間の干渉はなく、安定した動作になっている。測定中の波形の観測はモニター出力端子を利用すれば常時可能である。測定周波数範囲も10Hz~500kHzと、きわめて広帯域になっている。

■今月号でとりあげた新製品の問い合わせ先

東京芝浦電気(株)総務部総務課^{1,4,7}

東京都千代田区内幸町1-1-6

TEL (03) 501-5411

パイオニア(株)宣伝部^{2,8,16,22}

東京都大田区大森西4-15-5

TEL (03) 763-2111

シャープ(株)宣伝本部広報課^{3,6,12,19,17}

大阪市阿部野長池町22-22

TEL (06) 621-1221

東京事務所広報係

TEL (03) 253-5111

サンヨー電子(株)⁵

東京都武蔵野市西久保2-3-9

TEL (0424) 51-3480

ローランド電子工業(株)⁹

東京都目黒区大岡山1-36-8

TEL (03) 717-0161

日本ビクター(株)PR本部^{10,14,20,21}

東京都中央区日本橋本町4-1-1(ビクタービル内)

TEL (03) 241-7811

松下電器産業(株)報道部東京報道課^{11,18}

東京都港区芝区芝4-8-2(新ナショナルビル内)

TEL (03) 453-3111

ソニー(株)¹²

東京都品川区北品川6-7-35

TEL (03) 442-5111

(株)日立製作所 社長室(弘報)¹⁹

東京都千代田区丸の内1-5(新丸ビル)

TEL (03) 212-1111

トリオ(株)広報部²³

東京都渋谷区渋谷1-65

TEL (03) 400-7111